

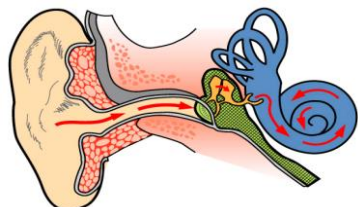
メニエール病



NO. 96



メニエール病は1861年、フランスの内科医プロスペル・メニエール氏が、めまいが内耳から起きることを始めて提唱しました。「メニエール氏病」、「メニエール病」、「メニエール病」などと呼ばれています。



耳の奥にある内耳は骨と膜の二重構造になっています。膜の内側は内リンパ液で満たされていますが、ストレスなどなんらかが原因で、**内リンパ液の量の調節**ができなくなり、**内リンパ水腫**ができて神経が圧迫されます。それによって**耳鳴り、めまい、ふらつき、難聴**などの症状が現れます。

メニエール病は、季節の変わり目や気候の変化（低気圧や前線の接近している時）に発作を起こしやすくなりますので、そんな時過労やストレスを貯めないように気をつけましょう。



回転性のめまい発作を繰り返す。

メニエール病の症状



突然、周囲や天井がぐるぐる回っているように感じる。

耳鳴りがする
(特に片方の耳)



船酔いをしているような吐き気がする。

難聴



めまいの発作は軽いものは数分から数時間、重いものは2~3日以上続くこともあります。繰り返しているうちに難聴になったりしますので、早めの診断、治療が大切です。

<メニエール病の検査方法の一部>

- 聴力検査。眼振検査（目の動きをみる）
- 平衡機能検査（体のバランスをみる）
- 立ち直り検査（両足での直立検査、片足での直立検査、目を閉じたりしてのふらつきをみるマン検査など）
- 足踏み検査（50歩以上の足踏みをして、内耳の悪い方の耳に曲っていく）

大成会広報室

メニエール病のめまいの検査や治療は「耳鼻科」ですが、原因のわからないめまいは「脳神経外科」や「神経内科」又は「内科」等に罹って診断してもらうことが大切です。



発作がくるなと思ったら・・・

1. 発作の予兆がなんとなくわかったり、体の調子が悪い時は、無理せず外出を控え、自宅で安静にしましょう。
2. 発作のめまいが起きてしまったら、目を閉じ楽な姿勢で、静かなところで安静にしましょう。
3. メニエール病の根本的治療方法はまだ見つかっておりません。対処法は発作時の症状を抑える薬物療法です。（循環改善剤、血管拡張剤、利尿剤など）

メニエール病の予防方法

過労や睡眠不足に気をつけましょう。

ストレスを溜め込まないように！



休養、リフレッシュ

